

2021年7月19日

2021年の夏休み(7月20日～8月31日)の旅行動向

- 国内旅行人数は4,000万人、対前々年比▲44.8%(対前年+5.3%)
- 8月22日まで東京都・沖縄県に緊急事態宣言発出、
旅行者数は前年から増加するも、大きな回復には至らない見込み
- 引き続き域内、感染防止で安心安全を意識する“新常态の安近短”旅行

JTBは「夏休み(7月20日～8月31日)に、1泊以上の旅行に出かける人」の旅行動向見通しをまとめました。なお、今夏の旅行動向見通しについては、新型コロナウイルス感染症(COVID-19/以下新型コロナ)の感染拡大に対する国の方針および東京2020オリンピック競技大会の観客受け入れ方針の発表を待ち、対象期間を7月20日～8月31日(例年は7月15日～8月31日)に変更し、国内旅行のみを対象としました。当社は本レポートを1969年から発表し、旅行動向アンケート、経済指標、業界動向や予約状況などから推計しています。

(図表1) 2021年夏休み旅行動向推計数値(夏休み期間調整済み)

	2021年夏休み			2020年 実績推計	2020年 2019年比	2019年 実績推計
	2021年推計値	2020年比	2019年比			
総旅行人数(延べ)				3,805万人	▲49.5%	7,540万人
国内旅行人数	4,000万人	5.3%	▲44.8%	3,800万人	▲47.5%	7,240万人
海外旅行人数	-	-	-	5万人	▲98.4%	300万人
国内旅行平均費用	33,000円	3.1%	▲9.6%	32,000円	▲12.3%	36,500円
海外旅行平均費用	-	-	-	170,000円	▲26.7%	232,000円
総旅行消費額				12,239億円	▲63.3%	33,386億円
国内旅行消費額	13,200億円	8.6%	▲50.0%	12,160億円	▲54.0%	26,426億円
海外旅行消費額	-	-	-	79億円	▲98.9%	6,960億円

* 旅行人数は、延べ人数数値。平均費用は一人1回あたりの費用 * 対前年比は小数点第二位以下を四捨五入

* 国内旅行人数は宿泊を伴う旅行者の人数(観光および帰省目的の旅行に限る) * 海外旅行人数は出国者数(業務目的の旅行を含む)

* 国内旅行平均費用は、交通費・宿泊費・土産代・食費等の旅行中の諸費用を含む * 海外旅行平均費用は、燃油サーチャージ含む。旅行先での土産代等の現地支払費用は除く

【旅行動向アンケート 調査方法】

調査実施期間：2021年7月5日～7日9日

調査対象：全国15歳以上79歳までの男女個人

サンプル数：事前調査10,000名 本調査1,030名

(事前調査で「夏休みに旅行に行く/たぶん行く」と回答した人を抽出し本調査を実施)

調査内容：2021年7月20日～8月31日に実施する1泊以上の旅行(商用、業務等の出張旅行は除く)

調査方法：インターネットアンケート調査

※本調査は、2021年7月12日に東京都の緊急事態宣言、4府3県のまん延防止等重点措置が発出される前に実施されたアンケートをもとに分析されています。

<報道関係の方からのお問い合わせ先>

JTB 広報室 03-5796-5833(東京) 06-6260-5108(大阪)

<社会経済環境と生活者の動き>

1. 新型コロナと旅行・観光の動き

新型コロナが世界的流行になってから 2 度目の夏を迎えました。変異種を中心とした感染拡大は現在もなお世界中で続いており、累積感染者数は1億8,000万人以上になりました(2021年6月末時点)。

一方でワクチン接種も広がっています。先行している一部の国では「トラベルバブル」(隔離なしでの往来)やワクチンパスポートの整備など、渡航規制緩和に向けた具体的な施策が進んでいます。EU では 2021 年 7 月 1 日よりワクチンパスポートの発行を開始し、またタイ・プーケット島では同日よりワクチン接種済みの観光客受け入れを再開するなど、海外観光旅行の再開に向けた動きがみられます。イギリスは 7 月 19 日に新型コロナによる規制のほとんどを解除し、ウイルスと共存していく措置がとられる予定です。感染拡大の懸念は依然拭えませんが、世界各地で徐々に正常な活動が戻り、旅行についても国や地域間の移動が再開される準備が進んでいます。

国内の新型コロナの状況に関しては、4月以降変異種の拡大に伴い、緊急事態宣言とまん延防止等重点措置が一部の都道府県に対して発出されました。一時感染者数が減少したことから、6月20日に緊急事態宣言が沖縄県以外の地域に対しては解除されたものの、再び感染者数が増加したことから、7月12日から8月22日までの間、東京都と沖縄県には緊急事態宣言が、大阪府・神奈川県・千葉県・埼玉県に対しては、まん延防止等重点措置が適用となっています。

2. 夏休みの旅行・観光の動きと東京2020オリンピック競技大会・パラリンピック競技大会

今年の夏休み期間は、ゴールデンウィーク(GW)に引き続き、最大の旅行市場である東京都に緊急事態宣言が発出、首都圏3県にもまん延防止等重点措置が適用され、感染拡大の影響を大きく受けることが予想されます。GW に緊急事態宣言が発出されていた大阪府、京都府、兵庫県は大阪府だけがまん延防止等重点措置の適用となり他は解除となったため、関西地区の人々の旅行は回復が期待されます。

航空会社や JR 各社においても、7 月後半からの持ち直しが期待されています。ANA は 7 月 22 日～25 日の利用者が前年の 2 倍、お盆休みは同 2～3 倍の見通しを示しており、JR 東日本では管内エリア各地で臨時列車が運行される予定です。

昨年の夏休み期間は東京都以外で GoTo トラベルキャンペーンが展開されていましたが、国は現在、都道府県が行う県内旅行の割引事業への財政的支援策「地域観光事業支援」を実施しています。支援の対象となるのは感染状況がステージ2以下の地域であるため、一都三県は対象外となりますが、現在 35 県(7 月 17 日時点)で実施されており、多くの自治体で域内の支援策が行われています。人の動きは地域内旅行や近距離旅行が中心となり、感染防止の安心安全に配慮した「新常态の安近短」は今年も継続しています。

そのようななか、東京2020オリンピック競技大会が 2021 年 7 月 23 日～8 月 8 日、東京2020パラリンピック競技大会が 8 月 24 日～9 月 5 日にそれぞれ開催されます。ただし東京2020オリンピック競技大会は、会場となる地域のうち6都道県では無観客での開催が決定されたため、関連する旅行の影響はごく小さい見込みです。

3. 旅行やレジャー消費をとりまく経済環境と生活者意識

日本社会は、これまで4回の緊急事態宣言とまん延防止等重点措置による影響を受けています。2021年6月の政府の月例経済報告によると、全体としては持ち直しの動きが続いているものの、個人消費はサービス

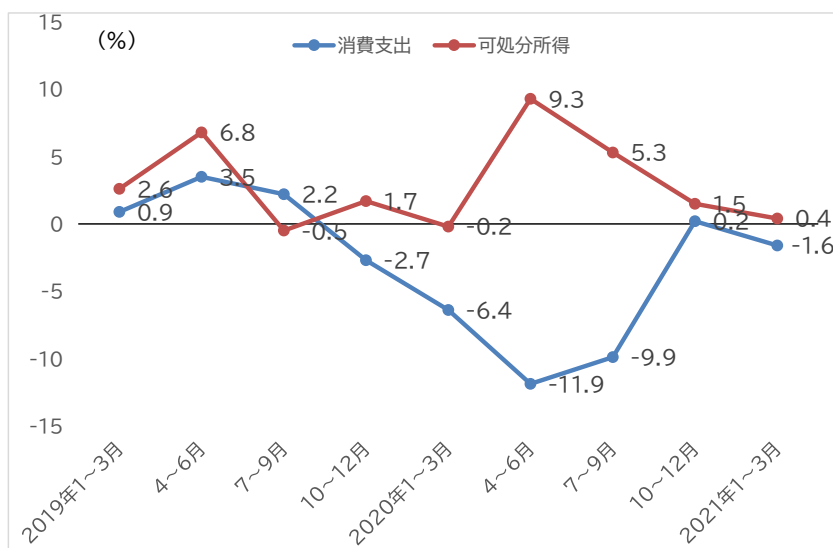
業を中心に弱さが増しているとされています。しかしながら 2020 年度は景気回復が進む海外の需要を取り込んだ製造業の業績が好調だったこと、「巣ごもり消費」も活発だったため、税込総額は60兆8,216億円と過去最高を記録しています。外出や移動を伴う消費に関わる業種は依然大きく落ち込んだままで、業種により明暗が分かれているのがリーマンショック時との違いです。

一方、消費者心理としては当初の先行き不透明感もあり、総務省の「家計調査」では消費の抑制および可処分所得の増加傾向がみられ(図表2)、その結果、日本銀行の「貸出・預金動向」における家計金融資産は 21 年 1~3月期で、比較可能な 2005 年以降で過去最高となっています(図表3)。生活意識に関しては、日本銀行の「生活意識に関するアンケート調査」から、「暮らし向き(ゆとり)状況」を時系列に推移をみてみました(図表4)。新型コロナの感染が拡大した 2020 年は、「ゆとりがなくなってきた」は減少傾向にあり、生活のゆとり意識は緩やかながら改善傾向と言えます。2021 年の夏のボーナスも全体では減少しましたが、減少幅は半減し、増額となった業種は前年より増加しています。外食や観光などサービス業に多い非正規雇用者の雇用環境は悪化していますが、正規雇用は手堅く、若者の旅行に影響を受けやすい新卒学生の内定率もコロナ禍前と同水準まで戻っています。

JTB が実施したアンケートで、生活と夏休みの旅行について当てはまる状況を聞いたところ、「先行きがわからないので大きな支出は控えておきたい(19.4%)」や「株や資産運用について考えるようになった(10.1%)」など不透明感の漂う将来を見据え、堅実な消費や資産構築を検討する意向がみられます(図表5)。その一方で、「新型コロナの影響で我慢を強いられてきたので、買い物や外食、趣味や娯楽などを行って発散したい(11.1%)」など 1 年以上に渡る自粛生活疲れから、消費意欲が溜まっている様子がうかがえます。

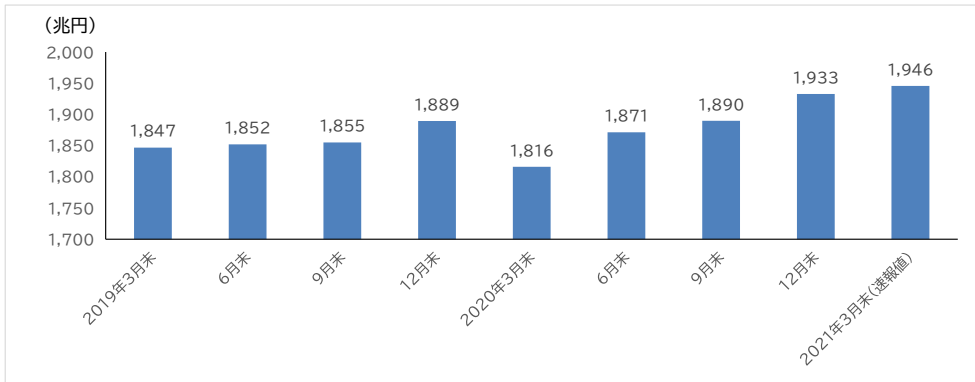
「今後1年間の旅行支出に対する意向」については、「コロナ前(2019年以前)」と「コロナ禍(2020年以降)」とそれぞれ比較して聞いてみました。「コロナ前(2019年以前)より旅行支出を増やしたい」と回答した人は9.4%、「コロナ禍(2020年以降)より旅行支出を増やしたい」は15.3%と、感染拡大が始まった昨年よりは旅行支出を増やしたいと考える人の割合が高い結果となりましたが、コロナ前ほどは旅行支出に対して前向きではないことがわかります。なお、「支出を減らしたい」と考えている人はほぼ同程度でした(図表6)。

(図表2)勤労者世帯の消費支出と可処分所得の対前年同期実質増減率の推移(総世帯)



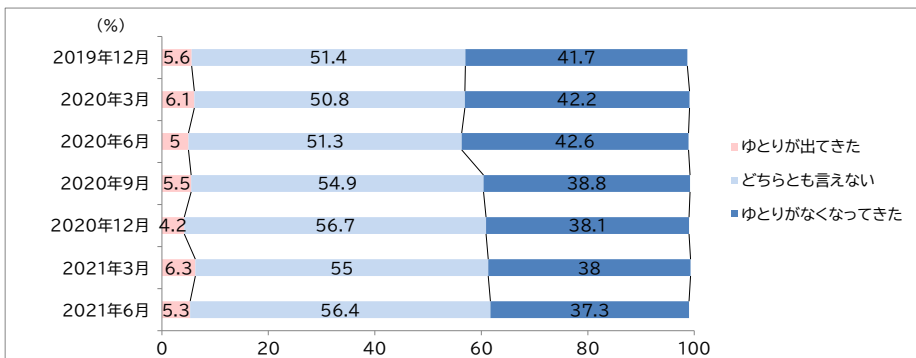
総務省「家計調査」を基に JTB 総合研究所作成

(図表3)家計金融資産の推移



日本銀行「貸出・預金動向」を基に JTB 総合研究所作成

(図表4)現在の暮らし向き(2019年12月~2021年6月)



日本銀行「生活意識に関するアンケート調査」をもとに JTB 総合研究所作成

(図表5)今の自身の生活と夏休みについて(複数回答 N=10,000)

<自身の生活について>	%
物価がもっと上がる前に大きな買い物(耐久消費財など)をしておきたい	1.6
先行きがわからないので大きな支出は控えておきたい	19.4
消費活動を行えなかったので、買い物や外食、趣味や娯楽などの支出を増やしたい	4.2
コロナの影響で我慢を強いられてきたので、買い物や外食、趣味や娯楽などを行って発散したい	11.1
株や資産運用について考えるようになった	10.1
<夏休みの旅行について>	
昨年の夏より長い休みが取れると思う	4.1
昨年の夏より休みは短くなると思う	3.7
昨年の夏と休みの長さは変わらない	18.8
昨年の夏より長期間の旅行をしたい	3.8
昨年の夏より短期間で旅行したい	3.4
昨年同時期に比べて、お出かけや外出することが増えた	4.3
昨年同時期に比べて、お出かけや外出することが減った	25.7

(図表6)今後1年間の旅行の支出に対する意向(単一回答 N=10,000)

%		コロナ前と比べて (2019年以前)	コロナ禍と比べて (2020年~現在)
支出を増やしたい		9.4	15.3
同程度	同程度(合算)	45.6	39.5
	単価を減らし回数を増やす	5.7	5.0
	単価を増やし回数を減らす	9.1	8.8
	単価も回数も同程度	30.8	25.7
支出を減らしたい		45.1	45.2

* アンケート結果は無回答があるため単一回答でも合計100%にはなりません。

<夏休みの国内旅行動向予測>

4.夏休みの旅行を取り巻く環境と生活者の旅行意向

※本動向調査は冒頭記載の通り、7月5日～9日実施のアンケート結果に基づいています。

今年の夏のカレンダー
(7月20日～8月31日) ※赤字は国民の休日

7月

日	月	火	水	木	金	土
		20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

8月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

今年の夏休み期間中(2021年7月20日～8月31日)の帰省を含めた旅行意向の詳細を前述のアンケートで聞きました。今年は、7月22日～7月25日が4連休、8月7日～8月9日が3連休となります。なお、新型コロナウイルスの影響により、8月22日まで2都県が緊急事態宣言、4府県がまん延防止等重点措置の適用対象となっています(7月19日現在)。

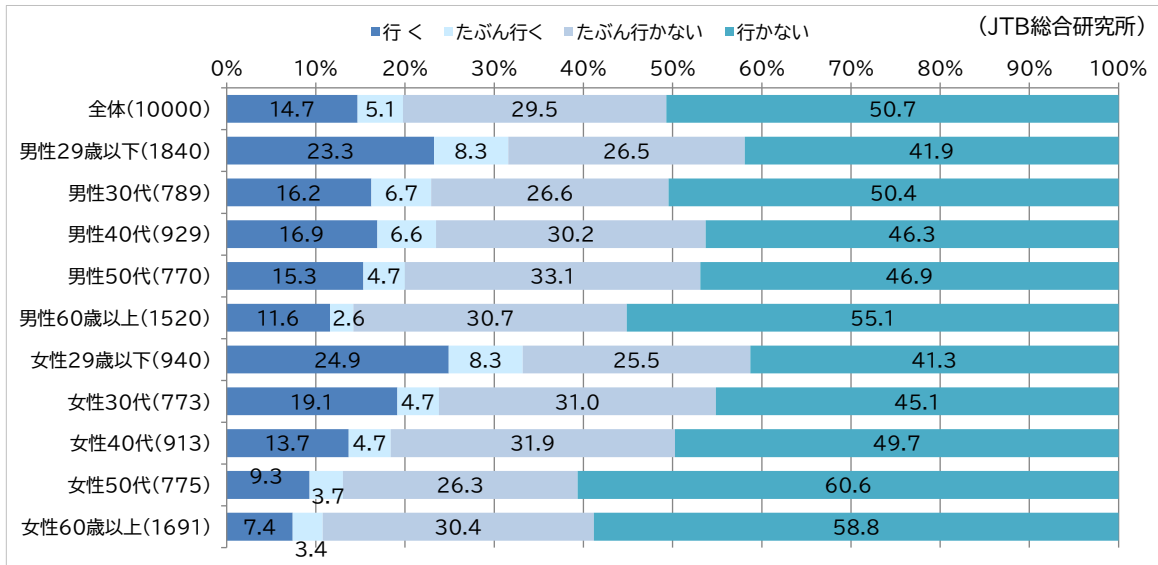
期間中に旅行に行くかどうかについては、「行く(“行く”と“たぶん行く”の合計)」と回答した人は調査時点で19.8%となりました(図表7)。コロナ禍前の夏休みの旅行意向は概ね40%前後で推移していましたが、今年は例年の半分程度になっています。性年代別でみると、男女とも若い年代ほど旅行意向が高くなる傾向がみられます。「行く(“行く”と“たぶん行く”の合計)」が男性29歳以下は31.6%、女性29歳以下は33.2%であるのに対し、男性60歳以上は14.2%、女性60歳以上は10.8%でした(図表8)。

旅行に行かない理由としては、「まだコロナの影響で、旅行することに不安があるから(45.1%)」が最も多く、次いで「コロナウイルス新規感染者数が減っているとは言えない状況だから(37.1%)」「コロナ第5波が心配だから(31.1%)」となっており、新型コロナが大きく影響しています(図表9)。一方で「治療薬やワクチンの接種が遅れているから」が17.1%となっており、ワクチン接種が進むことで旅行意向が高まることが考えられます。

(図表7)夏休みの旅行意向 (2021年7月20日～8月31日 単一回答 N=10,000)

	%
行く	19.8
行く	14.7
たぶん行く	5.1
行かない	80.2
たぶん行かない	29.5
行かない	50.7

(図表8)夏休みの旅行意向 性年代別(単一回答、N=10,000)



(図表9)今年の夏休み旅行に行かない理由(複数回答、N=7,371)

	%
まだコロナの影響で、旅行することに不安があるから	45.1
コロナウイルス新規感染者数が減っているとは言えない状況だから	37.1
コロナ第5波が心配だから	31.1
旅行先や施設でのコロナウイルス感染防止策に不安があるから	20.9
治療薬やワクチンの接種が遅れているから	17.1
家でんびりしたいので	14.4
なんとなく行く気にならないから	13.2
仕事などで休暇が取れないから	10.8
景気が悪いので支出を抑える	9.0
WHOが全世界のコロナウイルス感染症の終息宣言をしていないから	8.6

5. 国内旅行人数は 4,000万人(19年比▲44.8%、20年比+5.3%) 国内旅行平均費用は 33,000円(19年比▲9.6%、20年比+3.1%)

夏休み期間(7月20日～8月31日)の旅行に関しては、各種経済指標、コロナ禍における交通機関各社の輸送人員実績推移、移動データ、定点意識調査なども参考にし、国内旅行人数は4,000万人(19年比▲44.8%、20年比+5.3%)、国内旅行平均費用は33,000円(19年比▲9.6%、20年比+3.1%)、総額1兆3,200億円と推計します。

今年と昨年との旅行を取り巻く環境の違いは以下のとおりです。

昨年は最初の緊急事態宣言が明け、6月末から県をまたぐ移動も再開されたものの、新型コロナへの警戒感が強く、初の感染再拡大への不安も重なり行動を自粛する様子がしばらくの間みられました。また、学校が休校となった影響で夏休み期間中に補講を実施した学校も多く、旅行の計画をたてにくい状況でした。一方で、7月22日から実施された観光支援策「GoToトラベルキャンペーン」の影響は大きかったものの、9月末まで東京都内の発着は対象外となり、夏休み期間の当キャンペーン利用宿泊数は東京が加わった10月以降に比べると限定的と考えられています(観光庁データによる)。

今年は、東京都と沖縄県に緊急事態宣言が発出されていますが、JR各社や航空会社の利用実績から大幅な減少は足元では生じていないようです。

また、今年は GoTo トラベルキャンペーンに代わる県民割などの「地域観光事業支援」を 35 県(7 月 17 日時点)にて実施しています。感染拡大が抑えられている地域を中心に、地域内旅行が活性化していると考えられます。

意識調査では、旅行者の意識は、当初は「新型コロナが終息したら旅行を再開したい」と考える割合が高く、過去のパンデミックのように短期終息への期待があったものの、コロナ禍が長引くにつれて、安心安全に配慮しながら旅行を再開したいという傾向に移りました。

以上を勘案すると、今夏の国内旅行者数は、一部地域においては抑制がかかるものの、昨夏を上回ることが予測されますが、大きく回復に転じているわけではないということがいえるでしょう。

旅行費用については、域内旅行志向による平均泊数の低下、および将来不安による旅行費用の抑制傾向が見られる一方で、多少割高でも新型コロナの感染防止を優先する傾向と、観光・地域応援と連動した旅行先での食事やお土産の購入等から、一人当たりの平均費用(単価)は前年を上回ることが予測されます。JTB の予約状況による旅行のピークは、7 月の 4 連休開始日となる 7 月 22 日で、次いで 7 月 23 日となっており、今夏の傾向については次章以降で述べる通りです。

6. 夏休みの旅行はこれまでと同様に、感染予防を意識した「新常态の安近短」傾向

アンケートの事前調査で「今年の夏休みに旅行に行く／たぶん行く」と回答した 1,030 名を抽出し、旅行の内容について詳細を聞きました。

旅行日数:「1泊」が41.9%と最も多く、次いで「2泊(29.6%)」「3泊(15.3%)」となっています。3泊までの旅行が全体の86.8%を占めており、コロナ禍前の 2019 年(84.3%)より 2.5 ポイント上昇し、短期傾向は強まっています。(図表10)。

同行者:「夫婦のみ(25.6%)」で最も多く、次いで「子供づれ(中学生までの子供がいる)の家族旅行(22.4%)」となっています。また、「ひとり(20.3%)」はコロナ禍前の2019年(13.4%)より 6.9 ポイント増加しており、感染防止や周囲への配慮などもあってか、ひとりで旅行に行く人は増えています(図表11)。

旅行目的や動機:「帰省、離れて住む家族と過ごす(21.5%)」が最も多く、次いで「温泉でゆっくりする(17.4%)」「自然や風景を楽しむ(10.7%)」となっており、この傾向は 2019 年と変わりありません。一方で「ハイキング、登山、キャンプ等」は 2019 年と比較して、2.3%から 6.2%と 3.9 ポイント上昇しています(図表12)。

旅行先:居住地別の旅行先から、マイカー等使って気軽に行ける近場の傾向が見え、引き続き全国的に旅行先と居住地が同じ域内旅行の割合が高いです(図表13)。その地域を選んだ理由としては、「行きたい場所があるので(30.6%)」「帰省先なので(22.6%)」「泊まりたい宿泊施設があるので(15.1%)」が高い結果でした(図表14)。

一人当たりの旅行費用:「1万円～2万円未満」が26.3%で最も多く、次いで「2万円～3万円未満(18.9%)」「1万円未満(15.3%)」となっており、3万円未満が全体の6割を占めています(図表15)。

利用交通機関:「乗用車・レンタカー」が70.0%で最も多く、次いで「JR 新幹線(16.3%)」「JR 在来線・私鉄(15.2%)」となっています。コロナ禍前の 2019 年と比較すると、「乗用車・レンタカー」は9.6 ポイント増加し、「JR 新幹線」「JR 在来線私鉄」の合計(31.5%)は 7.4 ポイント減少しており、公共交通機関より乗用車・レンタカーを利用する傾向がみられます(図表16)。

利用宿泊施設:「ホテル」が43.1%で最も多く、次いで「実家や親族の家(26.1%)」「旅館(25.0%)」となっています。ホテルはコロナ禍前の2019年(48.8%)から減少傾向となりました。一方、「実家や親族の家」と「友人・知人の家」の合計(29.5%)は、2019年(25.9%)から3.6ポイント増えています。また「キャンプ場・グランピング・キャンピングカー・車中泊など、アウトドアに関する宿泊(7.5%)」がGWに引き続き一定のボリュームを有しています(図表17)。

(図表10)旅行日数(単一回答 N=1,018)※海外除く (図表11)同行者 (単一回答 N=1,030)

	%	2019年		%	2019年
1泊2日	41.9	36.6	家族づれ	61.8	67.3
2泊3日	29.6	30.8	子供づれ(中学生まで)	22.4	27.6
3泊4日	15.3	16.9	夫婦のみ	25.6	21.0
4泊5日	6.2	5.8	三世代	5.8	8.0
5泊6日	1.4	3.4	それ以外(母娘など)	8.0	10.7
6泊7日	1.1	1.8	家族と友人・知人	3.8	4.0
7泊8日	1.8	1.8	友人・知人	11.4	11.3
8泊以上	2.8	2.8	団体(職場など)	0.5	1.1
			ひとり	20.3	13.4
			その他	2.2	2.9

(図表12)旅行目的や動機(単一回答、N=1,030)

	%	2019年
帰省、離れて住む家族と過ごす	21.5	19.5
温泉でゆっくりする	17.4	18.0
自然や風景を楽しむ	10.7	10.5
おいしいものを食べる	9.8	9.4
家族や友人との親睦を深める	8.3	5.3
ハイキング、登山、キャンプ等	6.2	2.3
海辺で保養、海水浴・水遊び	4.9	5.4
名所や史跡などを見て回る	4.7	6.5

(図表13)回答者の居住地別 夏休みの旅行先(地方別、単一回答 N=1,030)

(JTB)		夏休みの旅行先										
(%)		北海道	東北	関東	甲信越 (山梨、長野、新潟)	東海 (岐阜、静岡、愛知、三重)	北陸 (富山、石川、福井)	近畿	中国 四国	九州	沖縄 (奄美群島・屋久島含む)	海外
全体		8.5	10.4	17.3	13.1	11.7	3.9	12.4	9.7	9.0	2.7	1.2
居住地	北海道(53)	84.9	3.8	3.8	0.0	1.9	0.0	1.9	1.9	0.0	1.9	0.0
	東北地方(54)	0.0	77.8	14.8	3.7	1.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.9
	関東地方(429)	6.5	11.4	30.3	18.6	10.0	3.0	6.5	3.0	5.8	3.3	1.4
	中部地方(174)	2.9	4.0	12.6	17.2	34.5	9.8	10.3	2.9	4.0	1.7	0.0
	近畿地方(186)	3.2	1.6	4.8	10.8	7.0	5.4	36.0	18.8	8.6	2.7	1.1
	中国・四国地方(75)	4.0	4.0	6.7	2.7	1.3	0.0	14.7	56.0	8.0	0.0	2.7
	九州地方(59)	1.7	1.7	3.4	1.7	3.4	0.0	5.1	6.8	66.1	8.5	1.7

(図表14)旅行先を選んだ理由 (単一回答 N=1,030)

	%
行きたい場所があるので	30.6
帰省先なので	22.6
泊りたい宿泊施設があるので	15.1
その他	7.1
友人・知人など会いたい人が住んでいるので	6.6
新型コロナの影響が小さいので	6.5
手頃な値段のツアーをみつけたので	3.3
参加するイベントの開催地があるので	2.2
その土地で今流行っているものを体験したいので	2.1
家族の赴任先なので	1.8
観戦予定の東京2020オリンピック競技大会 東京2020パラリンピック競技大会の会場なので	1.0
コロナワクチンの接種率が高いため	0.8
今年話題になっている場所なので	0.2

(図表15)一人当たり旅行費用 (単一回答 N=1,018) (図表16)利用交通機関 (複数回答 N=1,018)

※海外を除く

※海外を除く

	%
1万円未満	15.3
1万円～2万円未満	26.3
2万円～3万円未満	18.9
3万円～4万円未満	7.5
4万円～5万円未満	14.0
5万円～7万円未満	5.9
7万円～10万円未満	8.2
10万円～15万円未満	2.7
15万円～20万円未満	0.7
20万円～30万円未満	0.3
30万円～40万円未満	0.1
40万円以上	0.2

2019年
9.5
21.8
20.1
8.7
16.0
9.8
9.2
2.8
1.5
0.4
0.0
0.1

	%	2019年
乗用車・レンタカー	70.0	60.4
乗用車	62.9	51.2
レンタカー	7.1	9.2
鉄道	31.5	38.9
JR新幹線	16.3	20.5
JR在来線・私鉄	15.2	18.4
航空機	14.3	16.7
従来の航空会社	11.4	13.0
格安航空会社(LCC)	2.9	3.7
長距離/貸切バス	3.6	7.1
フェリー・船	1.9	2.6

(図表17)利用宿泊施設 (複数回答 N=1,018) ※海外を除く

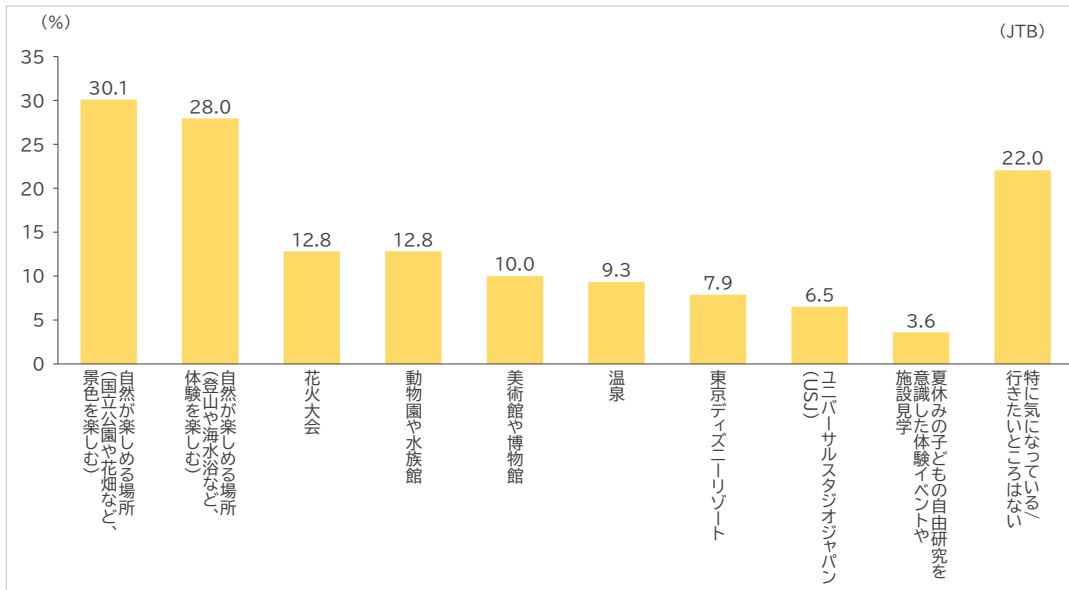
	%	2019年
旅館・ホテル・民宿・ペンション	73.4	84.3
ホテル	43.1	48.8
旅館	25.0	28.6
民宿・ペンション・公営施設等	5.3	6.9
その他宿泊施設	10.6	—
キャンプ場・キャンピングカーなど、アウトドアに関する宿泊	7.5	—
民泊・貸別荘	2.8	—
本来宿泊施設ではないユニークな施設(寺・図書館・城など)	0.4	—
実家・親族の家	26.1	25.9
友人・知人の家	3.4	—
その他	2.1	2.9

7. 感染症を予防しながら過ごせる、自然を楽しめる場所が高い人気

今年の夏休みに出かける場所として、気になっているところを聞きました。その結果、最も多かった答えは、「自然が楽しめる場所(国立公園や花畑など、景色を楽しむ)(30.1%)」、次いで「自然が楽しめる場所(登山や海水浴など、体験を楽しむ)(28.0%)」と、感染症を予防しながら過ごすことのできる、自然が楽しめる場所が高い人気となりました。次いでコロナ禍前から人気の高い「花火大会(12.8%)」「動物園や水族館(12.8%)」となりました(図表18)。

JTB の宿泊・国内企画商品の予約状況を見ると、地域により差があるものの、東京を除いた GoTo トラベルキャンペーンが実施されていた 2020 年より増加しています(+5%)。一方で、2019 年比で見ると▲65%と低調です。方面別に見ると、比較的感染の落ち着いた県民割などの「地域観光事業支援」策が後押ししている九州(+55%)や新潟佐渡(+50%)、伊勢志摩(+35%)、南紀(+30%)が好調に推移しています。引き続き感染拡大に留意した近場の旅行が多数を占めています。

(図表18)今年の夏休みに出かける場所として気になっているところ(複数回答 N=1,535)



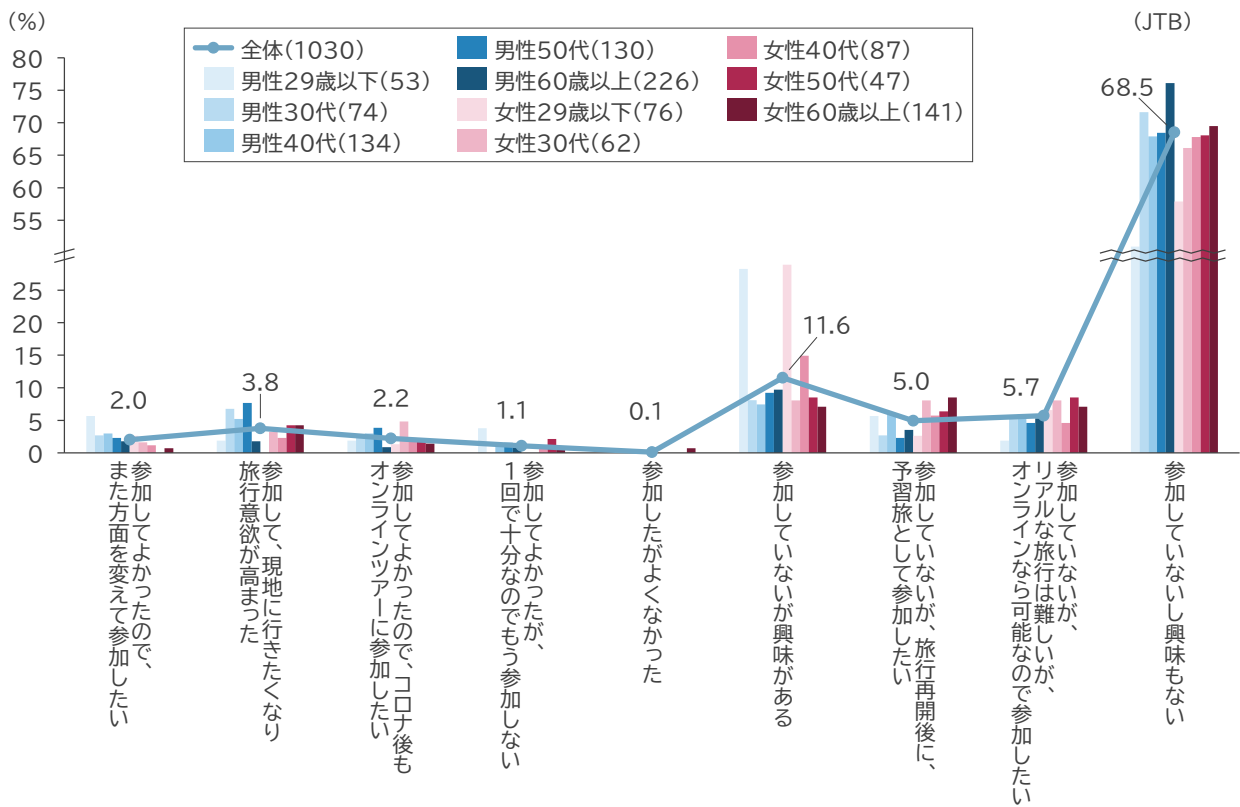
8. 次の旅行の予習として広がるオンラインツアー

新型コロナの感染拡大をきっかけに新たに広がった旅行・観光の動きの1つに「オンラインツアー(ウェブ上で行われる旅行)」があります。当初はバーチャルな旅行体験がリアルな旅行を阻害するのではと考えられていましたが、各種調査から競合するものではなく、むしろ旅行前に現地の人々と交流を持つことでリアルな旅行への関心が高まる事が分かっています。

今回、夏休みの旅行予定者にオンラインツアーについて聞きました。これまでに「参加したことがある人」は9.2%、「参加したことはないが、興味があるまたは参加したい人」は22.3%、「参加していないし、興味もない」人は68.5%となりました(図表19)。ウェブ上での観光地の見学に終わらず、地場産品のお土産がついている、一緒に料理体験をするなど体験もできる多彩な内容も増えてきています。今後オンラインツアーに参加する場合の重視する条件について聞いたところ、「参加費(無料または低価格)」が15.2%で最も高く、次いで「映像の美しさ(8.8%)」、「方面や行く場所の珍しさ・トレンド感があるかどうか(4.5%)」となりました(図表20)。

現状では割合が小さいものの、「参加していないが、リアルな旅行は体力的に難しく、オンラインだと遠い場所に行けるので参加したい」や「参加していないが、予習旅として旅行に行けるようになったら参加したい」と考える声もあり、実際に行く旅行とは異なる役割がオンラインツアーに期待されていることが分かります。オンラインツアーは新型コロナ収束後も、旅行先に関する情報収集等の「予習旅」として、また地域が旅行者とつながり続けるための接点づくりとして新たな地位を築き始めています。

(図表19)オンラインツアーの経験について(複数回答 N=1,030)



(図表 20)今後、オンラインツアーに参加するとすれば、重視する条件について (単一回答 N=1,030)

	%
オンラインツアーには参加したくない・興味がない	51.2
参加費(無料もしくは低価格)	15.2
映像の美しさ	8.8
子供も一緒に楽しめるかどうか	5.8
方面や行く場所の珍しさ・トレンド感があるかどうか	4.5
地場産品等のお土産付き	3.8
熟練のガイドの案内	3.4
ツアーの流れ(段取り)の良さ	3.2
ショッピングもできる(現地のものがECサイトのように購入可能)	2.1
社会性がある等、学びがあるかどうか(SDGsに関連等)	1.4
その他	0.6

(図表21)夏休みの旅行動向数値の推移

	旅行人数(万人)			旅行平均費用(円)		総消費額
	総数 前年比	国内旅行 前年比	海外旅行 前年比	国内旅行 前年比	海外旅行 前年比	(億円) 前年比
2001	7,562	7,296	266	35,115	210,149	31,210
	1.9%	1.9%	0.8%	▲ 2.0%	2.0%	0.4%
2002	7,612	7,369	243	33,654	213,091	29,978
	0.7%	1.0%	▲ 8.6%	▲ 4.2%	1.4%	▲ 3.9%
2003	7,535	7,347	188	33,923	222,893	29,113
	▲ 1.0%	▲ 0.3%	▲ 22.6%	0.8%	4.6%	▲ 2.9%
2004	7,490	7,242	248	34,975	208,851	30,509
	▲ 0.6%	▲ 1.4%	31.9%	3.1%	▲ 6.3%	4.8%
2005	7,604	7,365	239	35,300	214,600	31,128
	1.5%	1.7%	▲ 3.6%	0.9%	2.8%	2.0%
2006	7,657	7,410	247	35,716	223,100	31,977
	0.7%	0.6%	3.3%	1.2%	4.0%	2.7%
2007	7,662	7,420	242	36,200	232,000	32,474
	0.1%	0.1%	▲ 2.0%	1.4%	4.0%	1.6%
2008	7,572	7,348	224	35,800	249,000	31,884
	▲ 1.2%	▲ 1.0%	▲ 7.4%	▲ 1.1%	7.3%	▲ 1.8%
2009	7,353	7,128	225	34,300	212,300	29,225
	▲ 2.9%	▲ 3.0%	0.4%	▲ 4.2%	▲ 14.7%	▲ 8.3%
2010	7,669	7,427	242	35,500	222,100	31,741
	4.3%	4.2%	7.6%	3.5%	4.6%	8.6%
2011	7,524	7,264	260	33,260	227,300	30,070
	▲ 1.9%	▲ 2.2%	7.4%	▲ 6.3%	2.3%	▲ 5.3%
2012	7,736	7,460	276	33,730	231,400	31,546
	2.8%	2.7%	6.2%	1.4%	1.8%	4.9%
2013	7,887	7,624	263	35,010	240,420	33,015
	2.0%	2.2%	▲ 4.7%	3.8%	3.9%	4.7%
2014	7,805	7,545	260	34,850	249,800	32,789
	▲ 1.0%	▲ 1.0%	▲ 1.1%	▲ 0.5%	3.9%	▲ 0.7%
2015	7,803	7,561	242	34,700	251,500	32,317
	▲ 0.0%	0.2%	▲ 6.9%	▲ 0.4%	0.7%	▲ 1.4%
2016	7,674	7,410	264	33,700	216,300	30,681
	▲ 1.7%	▲ 2.0%	9.1%	▲ 2.9%	▲ 14.0%	▲ 5.1%
2017	7,732	7,460	272	34,400	216,000	31,511
	0.7%	0.7%	3.0%	2.1%	▲ 0.1%	1.0%
2018	7,742	7,453	289	34,800	214,500	32,134
	0.1%	▲ 0.1%	6.3%	1.2%	▲ 0.7%	2.0%
2019	7,540	7,240	300	36,500	232,000	33,386
	▲ 2.6%	▲ 2.9%	3.8%	4.9%	8.2%	3.9%
2020	3,805	3,800	5	32,000	170,000	12,239
	▲ 49.5%	▲ 47.5%	▲ 98.3%	▲ 12.3%	▲ 26.7%	▲ 63.3%
2021 (期間変更)	4,000	4,000	-	33,000	-	13,200
	5.1%	5.3%		3.1%		7.9%

* 対象期間は7月15日～8月31日 (ただし2021年のみ、7月20日～8月31日)

* 調査開始は1969年。海外旅行人数は実績値。

* 平均費用については、1993年より推計。2003年以前は動向結果により前年の発表数値から一部修正。

* 国内旅行人数は推計値で、2003年以前は動向結果により前年の発表数値から一部修正。